

市制 50 周年記念事業

東大和市は、令和2年10月に市制50周年を迎えました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、多くの市制50周年記念事業が中止となりましたが、いくつかの記念事業については事業内容等の変更を行いながら実施することができました。



市制50周年記念ロゴマーク

～主な記念事業～

- I 市制50周年記念式典
- II 子どもと大人のやくそく（子ども・子育て憲章）
- III 健幸都市宣言
- IV 平和事業
- V まちフォトコンテスト

東大和市出身の元プロ野球選手・岩隈久志氏からのメッセージ

大きな夢をもって



こんにちは。昨年10月に読売巨人軍を引退しました岩隈久志です。

この令和3年（2021年）よりシアトル・マリナーズの特命コーチに就任しました。

東大和市誕生50周年おめでとうございます。僕は今39歳ですが、東大和で育ち、子どものころはやんちゃに遊んでいました。

東大和市は自然豊かな場所で、子どものころは友達と一緒に公園や学校で野球やドッジボールで遊んでいました。そんな遊びをしながら夢を追いかけたこのまち、改めて大人になった今も自然豊かだいいままだと思います。

子どもの皆さんはこのまちで、ぜひ大きな夢を持ってください。その夢を達成するためにしっかり自分の好きなことを探してやり続ける、そういった思いを忘れないで過ごしていけば、必ず夢は達成できると思います。僕も小さいころからプロ野球選手になりたいという思いで、東大和で育って楽しく過ごして、そこから夢をかなえ世界へ飛び立つことができました。皆さんがこのまちを愛し続け、育っていくことを期待しています。

将来の都市像「水と緑と笑顔が輝くまち 東大和」、このまちにぴったりの素敵な表現だと思いました。今まで以上に市民の皆さんがいきいきと輝き、誰もが愛着を持てるまちになることに楽しみにしています。

そして、この東大和市がこれから先、ずっと長い長いまちであり続けるよう、願っています。

岩隈 久志

市制50周年記念式典

令和2年9月26日（土）、市民会館（ハミングホール）において市制50周年記念式典を挙行了しました。



式辞（尾崎保夫市長）

当日は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全出席者のマスクの着用、式典時間の短縮、出席者の縮小等に留意して、無事式典を挙行することができました。

式典では50周年を記念して、「東大和市子どもと大人のやくそく（東大和市子ども・子育て憲章）」及び「東大和市健幸都市宣言」を発表しました。

また、同式典と併せて市政功労者表彰式を挙行し、市政にご尽力された方々を表彰しました。



市制施行時の式典
市立第1中学校の体育館にて挙行



市政功労者表彰式



祝辞（小池百合子都知事）



YouTubeの東大和市公式動画チャンネルで「東大和市市制50周年記念式典」を見ることができます。ぜひご覧ください。



II

子どもと大人のやくそく (子ども・子育て憲章)

東大和市に住むすべての人たちが、みんなで明るい未来を目指し、それぞれが、自分らしく成長していけるように、「東大和市子どもと大人のやくそく」を制定しました。

市制50周年を迎え、子どもたちの笑顔があふれる「日本一子育てしやすいまち」の実現に向けて、市の未来・次代を担う子どもたちの健やかな成長を守り育み、子どもたち自身が地域社会の一員として、安心して自分らしく生きて、育っていける力を育めるよう、市民の皆様、地域関係者・事業者の皆様及び市が相互に協力し、取り組んでいくための子ども・子育てに関する「共通の理念・指針」となるものとして、「東大和市子どもと大人のやくそく(東大和市子ども・子育て憲章)」を制定しました。

この「やくそく」は、若い世代の皆様、子育て家庭の皆様、働く世代の皆様、シルバー世代の皆様など、さまざまな世代の皆様から、子どもたちをあたかな

まなざしで見守っていただくとともに、子育て家庭にもあたたかく寄り添い、時には力強く支えていただける地域を皆様と、共に築いていきたいという願いを込めています。

この憲章は、子どもと大人がお互いに呼びかけ合い、お互いの心を通じ合わせるという願いを込め、相互に呼応するような形で、やくそく(約束)という形式としています。

大人の皆様が子どもたちに寄り添い、地域であたたかなまなざしをもって守り育ていけるまち、若者や子育て世代が安心して子育てをしていけるまちを目指して、この「やくそく」を、基盤として、子どもから大人までの全ての人たちが、安心して暮らせる、夢や希望のある東大和市を、築いていきたいと思っています。

わたしたち子どもは

- すんで元よくあいさつをします
- よく遊びよく学び規則正しい生活をします
- 一人ひとりの個性を大切に思いやりを持って行動します
- 約束やルールをしっかりと守ります
- いじめはしません させません 困ったときはすぐに相談します
- ごみのないきれいな東大和にします
- ふるさとの豊かな自然を守り歴史や文化を伝えます
- 子どもの心や体を傷つけることはしません 気付いたときはすぐに手を差し伸べます

わたしたち大人は

- 子どもの心に寄り添い健やかな成長を見守ります
- 子どもから信頼されるよう誠実に生きる姿を見せます
- 子どもの様々な個性や考え方を認め可能性を引き出します
- 大人としての自覚と責任を持ちダメなことをダメと言える勇気を持ちます

子どもと大人のやくそく (東大和市子ども・子育て憲章)

豊かな自然に恵まれた東大和に住むすべての人が 未来に夢や希望を持ち命や人のかかわりを大切に 明るく元気に生きていくために 子どもと大人がお互いに約束しあいます

令和2(2020)年9月26日 市制50周年を記念して制定

「やくそく」に込めた想い

「やくそく」には、子どもと大人、それぞれがお互いに呼びかけ合い、お互いの心を通じ合わせるという願いを込めました。



「やくそく」ができるまで

どんなことを「やくそく」しようか?



子ども・子育てに詳しい方や市のイベントに来ていた方、学童保育所や児童館に来ていた子どもたちなど…東大和に住んでいるたくさんの人たちの想いを集めました。

お気持ちを言葉にしよう!



市内の小・中学校に通っている子どもたちと東大和の子ども・子育てにかかわる大人たちで話し合いを重ね、集めた想いを言葉にしていきました。

みんなの心に響いてもらいたい



この「やくそく」を、日々の暮らしの中で、東大和に住むすべての人たちの心に刻んでもらうことで、東大和の子ども・子育てに対する想いをいつまでも繋いでいきます。



YouTubeの東大和市公式動画チャンネルで「子どもと大人のやくそく(子ども・子育て憲章)」の発表動画を見ることができます。ぜひご覧ください。



III 健幸都市宣言

生涯にわたっていきいきと、一人ひとりが健康で幸せに暮らせるまちを目指して、「東大和市健幸都市宣言」を宣言しました。

市では、各種健（検）診や健康相談、健康教室等を実施し、健康増進施策に取り組んできました。現在は「人生100年時代」と言われており、生涯にわたって健康に暮らせることを目指して、「健康寿命の延伸」を国や東京都では掲げています。東大和市においても健康増進計画や「健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針」等を策定し、「健康寿命の延伸」に向けた取組を推進してきました。

そして、「更なる健康寿命の延伸」を図り、「一人ひとりが健康で幸せに暮らせるまちー健幸都市ー」の実現に向けて取組を推進していく契機とするため、市制50周年を迎えることに合わせて、「東大和市健幸都市宣言」を宣言しました。

「健康寿命の延伸」は、望ましい生活習慣や運動習慣を身につけ、生活習慣病などにならないようにすることが大切です。また、地域活動などの社会活動に参加し、社会的に孤立しないことも大切です。市では「健康寿命の延伸」に向けた取組を、「運動」、「食生活」、「社会参加」、「病気の予防と早期発見」、「環境づくり」の5つの項目に分類し、各事業に取り組むこととしています。

「一人ひとりが健康で幸せに暮らせるまちー健幸都市ー」は、個人による健康づくりと社会的な支えが結びついて、はじめて実現します。個人が自助努力をしやすい環境を整えとともに、市だけではなく、市民・企業・団体などの様々な関係者が協力しながら、健幸都市の実現に向けて取り組んでいきます。

東大和市健幸都市宣言

東大和市は、多摩湖のほとり、自然と文化に恵まれたまちです。

平和な世の中で、だれもが自分らしく、豊かな人生をいきいきとおくることがわたしたちの願いです。

一人ひとりが協力して、限りある命を大切に、わたしたちは健康で幸せに暮らせるまちを目指して、ここに東大和市を「健幸都市」とすることを宣言します。

- 1 楽しく運動を続け、身体のしなやかさ、たくましさ、機能を保ちます。
- 1 おいしく食べて、良好な身体を保つ食生活を実践します。
- 1 社会活動に参加し、世代をこえて人とふれあい、楽しく交流します。
- 1 健康状態を確認するため、すすんで健診を受けます。
- 1 ともに協力して、笑顔を大切に、喜びを受けとめながら生活します。

(令和2年9月26日宣言)



東大和ライフスタイルラボ Higashiyamato Lifestyle Lab

市では、東京大学未来ビジョン研究センターと「東大和ライフスタイルラボ」を実施しています。

「東大和ライフスタイルラボ」とは、産官学民が連携して様々な社会課題の解決方法を見つける「リビングラボ」を取り入れ、まちの主役である市民が主体的に健康なライフスタイルを送るためのノウハウを共有したり、サービスやモノをつくる場です。

令和2年度は、子育て世代の市民と「腸内環境改善」をテーマに取り組みました。今後も、様々なテーマで実施していきます。



令和元年5月28日に行われた協定書の締結式



YouTubeの東大和市公式動画チャンネルで「健幸都市宣言」の発表動画を見ることができます。ぜひご覧ください。



IV 平和事業

「東大和市平和都市宣言」の宣言から30年、市では平和の大切さを、様々な事業を通じて伝え続けています。平和事業は主に8月を中心とした「平和月間」中に行われます。

第16回平和市民のつどい (YouTube版)

「平和市民のつどい」は、戦後60年の節目の年である平成17年から、毎年、市の戦災建造物である旧日立航空機株式会社変電所前で開催されてきました。令和2年度は、市制50周年記念事業の一つとして、例年どおり現地での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、かたちを変えて、YouTube版として開催しました。



YouTubeの東大和市公式動画チャンネルで「第16回平和市民のつどい」を見ることができます。ぜひご覧ください。



東大和市平和都市宣言

市では、平成2年10月に、戦争と核兵器のない世界にむけて努力することを誓う「東大和市平和都市宣言」を宣言しました。

東大和市平和都市宣言



東大和市平和月間シンボルマーク

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

(平成2年10月1日宣言)

東大和市・東村山市地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業

戦後70年の節目の年(平成27年)から、東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金(子ども体験塾)の交付を受け、東村山市と連携して始まった事業です。

東村山市と合わせて、20名の小・中学生が両市の戦争の歴史を学び、さらには世界で初めて核兵器が使用された広島市の惨状の記録を、実際に現地に行つて体感できる事業です。

過去に参加した児童・生徒たちからは、戦争の歴史への見識が深まり、平和の大切さをより身近に感じることができたという感想を多くいただいています。



旧日立航空機株式会社変電所の説明を受ける参加者(平成31年度実施時)

東大和市の平和事業一覧		
事業名	内 容	主管課
平和祈念・戦争資料展	東京空襲、広島・長崎の原爆関連パネルの展示	社会教育課
非核・平和図書展	非核・平和に関する資料の展示・貸出	中央図書館
多摩の戦跡パネル展	多摩の戦跡を撮影した写真を展示	社会教育課 (郷土博物館)
旧日立航空機株式会社変電所の公開	展示パネル及び文化財ボランティアによる解説	社会教育課 (郷土博物館)
戦争と平和について考える見学会	小学生を対象とした、戦争と平和について考えるバス見学会	中央公民館
平和市民のつどい	旧日立航空機株式会社変電所前で行う平和の大切さを伝えるイベント (内容：演奏、朗読劇、合唱、式典等)	社会教育課
平和文集の発行	戦争体験者及び市内小・中学生による平和に関する作文を集めた文集の発行	社会教育課
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業	当市と東村山市が連携し、両市の小・中学生が地域の戦争の歴史を学び、広島県広島市を訪問する事業。(※令和2年度は中止)	社会教育課



広島派遣事業



平和市民のつどい



平和文集

市制 50 周年記念事業

V まちフォトコンテスト

市の魅力ある観光資源を発掘・発信し、市の認知度及びイメージの向上を目的に、フォトコンテストを開催しました。

東大和市まちフォトコンテストは、市の魅力ある観光資源を発掘・発信し、市の認知度及びイメージの向上を目的に、平成24年度から東大和市まちフォトコンテスト実行委員会と共催で開催している写真コンテストです。

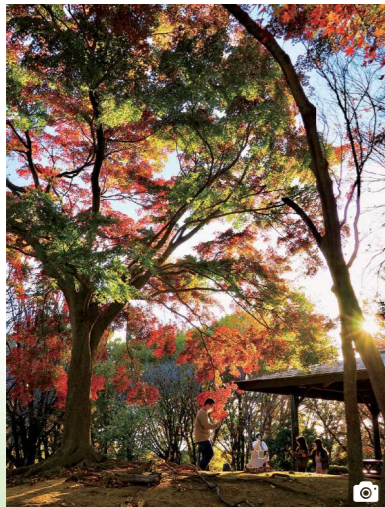
市のシンボル「多摩湖」をはじめとした豊かな自然や名所の写真はもちろん、市民のあたたかみのある表情や日常の何気ないひと時など、様々な角度から映し出された

市の魅力あふれる写真が応募されています。令和2年度に実施した第9回のコンテストは、市制50周年記念の冠事業として開催されました。

入賞作品の写真は、市の広報活動を目的とした様々な媒体で活用されており、この記念誌でも、随所でご覧いただけます。ぜひ、作品を通じて市の魅力を再発見してください。



第9回東やまと市まちフォトコンテスト最優秀賞作品「多摩湖マジックアワー」堀川真弓



優秀賞作品「紅葉のステンドグラスの下で」塚田兼一



優秀賞作品「黄昏の時間」本田誠



第4回より入賞作品のフォトブックを作り配布しています。

議会

市民の皆様の声を反映し、東大和市の発展に努めていきます

議決機関の東大和市議会は、定数22人の議員で構成され、市民の皆様の代表として、市民生活の様々な課題について審議・審査を行っています。

議会には、年4回開催される定例会と必要に応じて開かれる臨時会があります。また、3つの常任委員会と議会運営委員会があります。

市議会は公開されていますので、どなたでも傍聴することができます。また、本会議や委員会はインターネットでの映像配信を行っております。今後も、市民の皆様にかれた市議会を目指して、全力で取り組んでまいります。



会議の内容や結果、活動状況を広く市民の皆様へ周知し、議会と市政に対する理解を深めていただくため、「東大和市議会だより」を年4回発行しています。



令和元年12月3日撮影